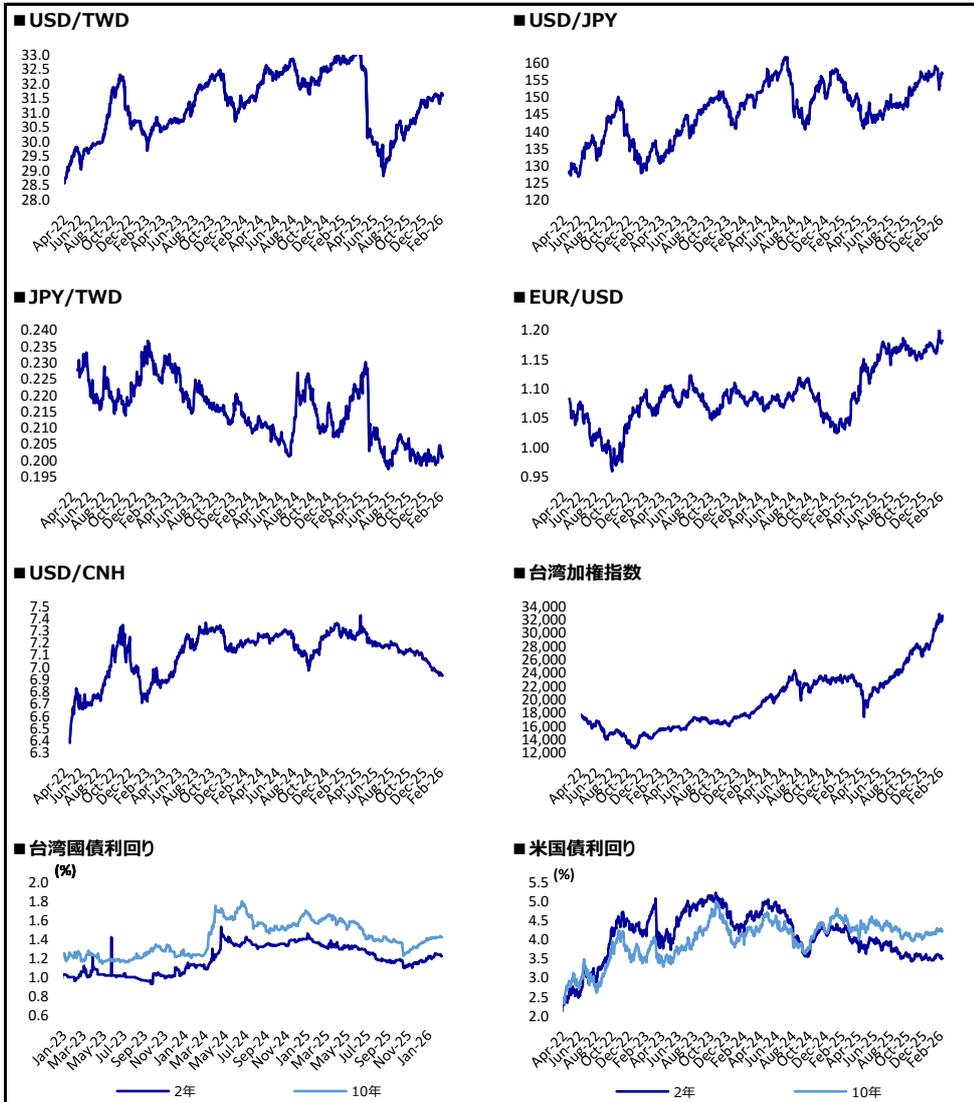


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のUSD/TWDは上昇展開。週初2日、USD/TWDは31.520でオープン。米財務長官が強いドル政策を強調した事やトランプ米大統領が次期FRB議長にウィット元理事を示した事で上昇展開となったものの、午後には31.673の高値から徐々に戻し、31.590で終了。3日には海外投資家の動きに明確な方向感が見られなく、31.600ちょうを挟み合う展開。午後には輸出企業によるドル売りや海外投資家による株の買い越して続落し、31.570で終了。4日に海外投資家による資金流入が台湾ドル買いを支え、31.500台後半でもみ合い。午後には海外投資家や輸出企業によるドル売りが強まり、一時31.503まで急落したが、生保や輸入企業によるドル買い戻しが入ったことで回復し、31.577で終了。5日、31.600台前半でレンジ推移。午後には外国人投資家による大幅な売り越し額が公開された事がドル買いを支え、一時31.688をつけ、31.648で終了。6日には市場のリスクセンチメントが依然として弱く、31.600台後半でレンジ推移。午後には、台湾株が安値引け、外資によるドル買いがドルの下支えとなり、最終的に31.678、前週比0.67%高でクローズ。先週、海外投資家は台湾株を1085.6億台湾ドル売り越した。

■ USD/JPY
先週のUSD/JPYは上昇展開。週初2日、USD/JPYは154.62円でオープン後、155円を挟んでレンジ推移した。海外時間は、一時週安値となる154.55に下落も、米金利上昇や米1月ISM製造業景気指数の好調な結果を受け、155円台後半に反発した。3日には155円台半ばで小動き。海外時間は、米金利が小さく推移する中で、155円台後半を中心にレンジ推移した。4日には衆議院選挙を控え円売りが強まり、156円台に乗せる展開。海外時間は、円売り基調が続く中で、米1月ISM非製造業景気指数の堅調な結果も相まって157円手前まで続伸した。5日には156円台後半を中心に底堅く推移。海外時間は、円売り基調が続く中で一時週高値となる157.34円に続伸も、その後は複数の米労働市場関連統計の軟調な結果を受けた米金利低下を背景に156円台半ばに反落。引け際に再度円売りが強まる中で157円付近に水準を切り上げた。6日、株式や資源価格が下落し市場がリスクオフの様相を呈するも、156円台半ばまで下落する場面も見られたが、増田銀審議委員の愛媛県金融経済懇談会にて早期利上げの示唆がなかったことなどから円が売られた。海外時間には発表された米2月ミシガン大学消費者マインド指数が予想を上回ったものの、同時に発表された構成項目の1年先の期待インフレ率が予想を下回った事を受け、157円ちょうど付近を挟んだレンジ推移が続いた。最終的に157.21、前週比1.57%高でクローズ。

■ USD/TWD 予想レンジ：31.350-31.750
今週のUSD/TWDはレンジ推移を予想。市場のリスクセンチメントが回復し、台湾株式市場の上昇が期待される。加えて、春節前の輸出企業によるドル売り需要が台湾ドル買いを下支えする可能性がある。一方で、市場は米重要経済指標の発表に注目しており、もし強い結果となれば、インフレ期待を押し上げ、ドルを支える要因となり得る。

■ USD/JPY 予想レンジ：155.00-159.50
今週のUSD/JPYは強含みの展開を予想。日本の選挙結果は市場予想どおり自民党が勝利し、高市政権が掲げる「責任ある積極財政政策」がさらに進展すると見込まれており、円安方向に進む可能性がある。また、市場は米重要経済指標の発表に注目。

今週の予定

2/9 (MON)	米国・日本・台湾1月製造業PMI、台湾1月輸出入貿易統計
2/10 (TUE)	米12月小売売上高、輸出入物価指数
2/11 (WED)	米1月非農業部門雇用統計
2/12 (THU)	米新規失業金申請件数、1月住宅販売件数
2/13 (FRI)	米1月CPI、台湾第4四半期GDP

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。